《シオーモの小径》

※〈シオーモの小径〉の世界は、地元俳人鬼房が、塩竈を訪れた文学者たちを迎え、〈夢幻能〉のごとく、問いかける構図である。

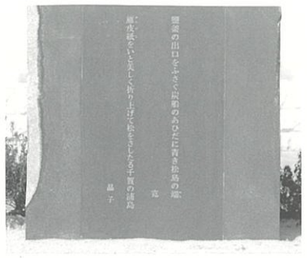
文学碑は、正岡子規の碑は籬島に、高橋睦郎の碑はザルツブルグと塩竈の軸上に、その他の碑は、塩竈と出身地とを結ぶ軸上に向けて設置。

みちのくの千賀の塩竈釜に得む塩のはつかも笑みかけたまへ
睦郎

塩の城のザルツブルクに聞きしより年どし遠しサラリー縁起
睦郎

籬嶋
涼しさのこゝを扇のかなめかな
子規

鹽釜の出口をふさぐ炭船のあひだに青き松島の端
寛

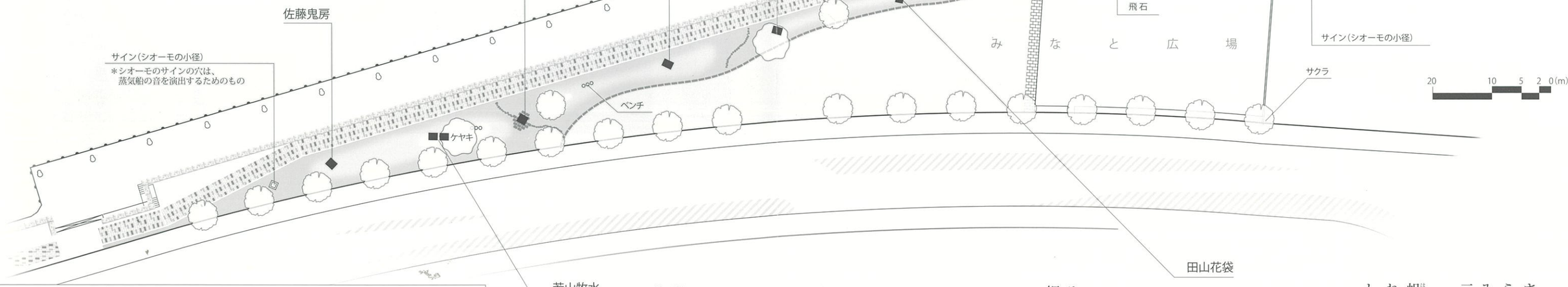


雁皮紙をいと美しく折り上げて松をさしたる千賀の浦島
晶子

松島の海を過ぐれば鹽釜の低空かけてゆふ焼けそめつ
茂吉

そして八月三十日の午ごろ、わたくしは小さな汽船でとなりの縣のシオーモの港に着き、そこから汽車でセンダートの市に行きました。
『ポラーノの広場』より
宮沢賢治

馬の目に雪ふり湾をひたぬらす
鬼房

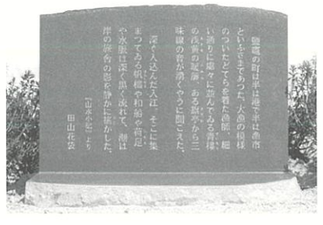


場　所	塩竈市海岸通
面　積	シオーモの小径　1,178㎡（みなと広場全体　4,798㎡）
事業費	シオーモの小径　12,000千円 みなと振興交付金 （みなと広場　37,680千円 まちづくり交付金）
石材など	文学碑　伊達冠石 賢治の碑のレール（union 1885）と敷石（一部）は、旧塩釜駅で使われたもので、碑の下部の曲線は日本鉄道（株）の社章（動輪）の一部をデザイン化したもの。 正方体の塩の結晶を一部（茂吉・睦郎）デザインに使用。 飛石、縁石は、貞山運河の護岸に使われていた間知石、ベンチは、戸沢石雑割石。 築港の碑のサインの台座の一部に塩竈石を使用。
植　栽	一部に文学者ゆかりのものを植える。 田山花袋　ツゲ、与謝野晶子　バラ、斉藤茂吉　キャラボク、宮澤賢治　アジサイ その他、ケヤキ、ツツジ、ユキヤナギなど。 桜（八重紅枝垂、小松乙女）21本（塩釜さくらの会より寄贈）

塩竈の町は半は港で半は漁市といふさまであつた。大漁の模様のついたどてらを着た漁師、細い通りに處々に並んでゐる青樓の浅黄の暖簾、ある旗亭から三味線の音が湧くやうに聞こえた。

深く入込んだ入江、そこに集まつてゐる帆檣や和船や荷足や水脈は深く黒く流れて、潮は岸の旅舎の影を静かに揺かした。

『山水小記』より
田山花袋



みちのくの千賀の塩釜雨ながら網かけ竝めぬほぼしらのとも
白秋

鹽釜より松島湾へ出づ
鹽釜の入江の氷はりはりと裂きて出づれば松島の見ゆ
牧水